

第1回「空母キティ・ホークの後継艦問題」についてご意見を聞く会議事録

平成 18 年 5 月 15 日(水)9:00～11:15

於:横須賀市役所 本庁5階 正 庁

廣川企画調整部長

会を開催する前に始めにこの会について若干説明させていただきます。この会は空母キティ・ホークの後継艦問題につきまして市長が皆様のご意見を拝聴させていただく会でございます。多くの方々のご意見をおうかがいするため市長からの発言は当初の挨拶のみとさせていただきますのでよろしくお願いいたします。本日お集まりいただきましたのは市内の各界の皆様方でございます。当初、議会の方々にもお声をかけさせていただきましたが、議員の皆様には議会の場でご議論をいただき、今回はなるべく多くの市民の皆様からのご意見をおうかがいするためご辞退をいただくこととなりましたことをご報告させていただきます。なお、出席者の皆様のご紹介は時間の都合もありまして申し訳ございませんが席次表をもってかえさせていただきます。

それではただいまから空母キティ・ホーク後継艦問題についてご意見を聞く会を始めさせていただきます。はじめに蒲谷横須賀市長からご挨拶を申し上げます。

蒲谷市長

みなさんおはようございます。朝早くから皆さん大変お忙しい方ばかりでいらっしゃると思いますがこの会に足をはこんでいただきまして誠にありがとうございます。この会の趣旨は今、廣川部長のほうから申し上げましたとおりでございますが、去年の 10 月に日米両政府からキティ・ホークの後継艦として原子力空母を配備するという発表がございました。私ども横須賀市としては以前からキティ・ホークの後継艦には通常艦を配備してくれと繰り返し強く要請してまいったところです。私も就任早々ではありましたがその旨を外務省、それからアメリカ大使館に強く訴えております。年末には自分自身でアメリカまで出かけていきましてその趣旨を強く申しあげました。ただ客観情勢を申し上げますとキティ・ホークの後継艦に通常艦が配備される可能性というのは非常に厳しいと現段階で申し上げざるを得ません。

でこういう状況の中でありまして私はこれまでいろんな方からいろんなご意見を伺ってまいりました。ですが改めて本日お集まりのように横須賀の各界を代表される方々からこの問題に関してご意見を伺って今後の対処の重要な参考にさせていただきたい。こういう趣旨でこの会を開催致したところであります。そういう意味で大変、あるいはご迷惑な点もあるかと思いますが、どうぞご忌憚のない意見を聞かせていただければ幸いですようお願い申し上げます。

す。それから冒頭、会自身のあり方ですとか、人選メンバー運営の仕方についていろいろご意見をいただきました。そういうこともございまして今回とは別に改めて第2回目というのでしょうか、やはりこの問題に関するご意見を公募という形で開催をしたいとこのように考えておりました、日程もすでにあらかじめ決めておりました6月の8日に第2回目の会合を持ちたいとこのように考えている次第であります。あらかじめご了承を願います。それではどうぞ皆さんご忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。私のご挨拶にさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

廣川部長

ありがとうございました。それでは恐縮ですが報道の皆様はカメラを止めていただきたいと思えます。

これから皆様方にご発言をいただきますがその際は挙手をしていただきまして私の方から指名をさせていただきます。なお、その際の指名でございましてが大変たくさんの方々にご出席をいただいております誠にも不勉強で恐縮ですが私の方で顔とお名前が必ずしも一致しない場合がございます。そちらの方ということでご指名をさせていただく場合がございますので失礼の段お許しをお願いいたします。なるべく多くの方々にご発言をさせていただきたいと思えますので円滑な進行につきましてご協力をよろしくお願いいたします。それではご発言ご希望の方は挙手をお願いいたします。それではお願いいたします。

発言者1番

おはようございます。この会が1回だとどうなるのかと心配しておりました。2回目は6月8日に開催されるということでございますけれど、回を重ねたほうがよろしかろうとそんなふうに思います。市長はじめ何人かがアメリカに行ってきておりますけれども1日や2日で安全性がしかも素人が行って確認が出来る訳がない。何のために行ったかわからない。

この辺についてもはなはだおかしな話だと思っております。そして確認をしてきた、どうやって確認してきたのか専門的な知識がある人が行ったのなら別でありますけど、そうでもなさそうでありますので。

どうやって確認をしてきたのか、ただ向こうの言い分を聞いてきただけなのかその辺がまずひとつであります。それから市長は立候補したときには原子力航空母艦の配置は反対であるという旨の主張をなさって立候補なさって当選をした。ということありますので、これはまあ世の中いろいろと変化がありますからしょうがないことだと思うのですが公約違反ではなかろうかとさえ思うのですが。アメリカへ行った効果・成果というものがどのようなものかと聞きたいと思えます。

いわゆる第7艦隊のいわゆる経済効果というのを、特に食べ物については全て神奈川県から購入をするということをお願いしております。

大体百二、三十億円のことだと思います。

それからもうひとつは原子力航空母艦の技術者であります、日本人は使わないということでもありますし、日本人が使われてもちょっとなかなか技術的にも無理だと、そうすると1クール300人から400人が横須賀に常駐するという、まあこういうことになっています。まあ交替はありますけど、こういうような間接的な経済効果これもあるのだと思います。

それからこんどはこれを絶好な機会ととらえて私は賛成論、賛成論者ではありませんけれども通常航空母艦がないのだったらしょうがないだろうと思うのであります。だとするとこれではいろいろ条件を付けたほうがいいだろうと思う訳であります。これを契機にして都市基盤の整備を徹底的にすべきだろうとこう思います。

何が一番大事か、3点もうしあげます。一つは産科専門の病院を作るということでもあります。これは先日も副市長に言ったことでもあります、産婦人科の先生がどんどんなくなっている、婦人科はあっても産科がない。安心して暮らしていける町を作っていこうじゃないかということでもあります。こういうのを条件にするということは少子化対策にもなるかと思えます。もうひとつ、リハビリを本格的にするには病院だけではたりません。厚木の奥に県立のリハビリセンターがありますが、やはり三浦半島にもこういうものを作るべきだと思っております。

それから私も子供もいますし、それから孫もおりますが、具合が悪いのは土曜日、日曜日、祭日、夜中、こういう時悪くなるのはあたりまえでして、1回2回、救急医療センターに夜中つれていったおもいがありまして、専門の医師がおらず、担当の医者は皮膚科だとか、耳鼻科だとかといった、偶然でしょうけれどそういうことがありました。

何十万人のお取引先のいろんな方からお目にかかって、お話を聞いていてほとんど私のことについて賛成をなさる方が80%以上いるということを最後に申し上げて発言を終わります。

廣川部長

ご発言ありがとうございました。なお、ご発言の前半で何点かご質問がございましたが、今日はお話をお伺いするのが趣旨でございますので、お答えにつきましてはまた改めてということにさせていただきたいと思えます。それでは他にご発言を・・・どうぞ

発言者2番

この問題のお電話をいただいた時に、わが会としてまとめてご意見を申し上げようということで市内の37の団体でございますけれど、このうち16の団体に理事をお願いしております。この理事の皆様方にお集まりいただきましてわが会の意見のまとめをしました。この理事のうち理事会に出席をしていただいたものが11名、電話で連絡をして意見を聞いたものが5名、合計16名でございます。

全面的に賛成したものはありません。絶対に反対というものが4名、反対だけでも日米安保の問題だとかあるいは防衛上の問題だとかあってきてしまうだろう。しかしウェルカムではないというのが全体としての流れであります。もっとも多い意見は原子力空母が来るということは横須賀に移動原子力発電所ができるようなものだ。もし横須賀に原子力発電所を作るということになったら、いったいどうするのですか。皆さん反対でしょう。首都圏に原子力発電所を作るなどということは考えもつかないことです。原子力空母が来るということはこれと全く同じことであるという認識をみんなもっております。それだけに万が一の場合における安全性については徹底的に調査すべきであり、国に絶対に安全であるという確約とそれに対する責任と対策とをしっかりと取らせるべきである。リスクマネジメントをしっかりと取らせることが大事である。これが出来ないかぎり容認すべきではない。これがわが会の意見である。

廣川部長

ありがとうございました。他にご意見は。はいどうぞ。

発言者3番

わが会の立場についてお話をさせていただきます。今回の米軍原子力空母の横須賀配置につきまして会長、個人としてまた理事会としてそして総会におきましても原子力空母の配置に反対いたします。ファクトシートによりまして米海軍原子力空母の安全性については理解をしておるところでございますけれども、100%安全であると言えないからであります。万が一原子力災害が発生し放射性物質が放射された場合、被曝した放射性物質が体内に留まることとなります。

100%安全でない限りわが会としては原子力空母配置 NO を表明させていただきます。平成11年9月に茨城県東海村でおきました原子力災害は原子力施設と米軍原子力軍艦の寄港基地を抱える横須賀市におきまして万一の被曝事故に備える体制を確立しておく必要があることを痛感させられております。

通常型空母の配置が限りなく低いと聞いておりますけれども、万が一米軍原子力空母の配置が決定された際には緊急事態対策、特に原子力災害につきましては米軍と横須賀市の間でしっかりとした対策を作成し、市民に公開されるべきであると考えます。そして訓練を米軍、横須賀市、わが会で定期的に行うことが必要であると考え、お願いし私の意見といたします。

廣川部長

どうもありがとうございました。他にご意見いかがでしょうか。はいどうぞ。

発言者4番

空母につきましては1973年にミッドウェイの乗組員の海外居住計画に基づいてこれが母港化の始まりだと思います。今いるキティ・ホークも日本に来る前に3ヶ月ほどかけてスクリー、舵等のオーバーホールをしております。この時の修理費用が定かではありませんが、65億円位と記憶しています。

こういったことで予算の捻出方法は別としましても、空母の修理費を日本政府でなんとか手当てできないものかと思っております。なぜならば片や、基地再編で3兆円という計算基礎はわかりませんが数字も歩いているわけではなんとかここにもぐりこんでできないものかと思っております。65億円仮にそういう金額としましてこの金額で地域の安全、安心が得られるのであればこれはひとつ考えていいのではないかというふうに思います。ひとつの根拠ではありませんが、ここに新聞記事のコピーがあります。

ひとつは98年だと記憶していますが読売新聞に米軍機修理費も4億負担と、こういうような米軍からの要請があります。これには現在の特別協定について日本側の負担が決まっている。米側がこれに修理費なども追加したい考えだというふうに読売新聞は伝えております。その後今年の1月の日経に自民党の久間総務会長、この方がアメリカに行きましてマクマナラ副局長とお会いになりましてその時に日本に配備している艦船などについて、将来的に日本が管理、補修を請け負う体制作りをしたいという提案をしている。

2点目ですが86年にウクライナのチェルノブイリ発電所の爆発事故ですね。これも当局の人が事態を大きく報道しなかったということで被害が大きくなったというふうに聞いています。米軍がこれまで艦船の油漏れ等で早期に関係団体、市に連絡が遅滞なくあったのかどうか。新聞等を見るとそうでもないようであります。ですから空母の問題も事前に周知、周到ができていない、事後も連絡がないあるいは遅いとなれば市民はどうなるのか。現在の要求では市民不在、市民無視ではないかと危惧しているところです。

3点目ですがわが会としては今後も通常型空母配備を求めていく基本姿勢は変わりありません。しかし、どのような方策を講じても通常艦は無理だ、原子力空母配備だとなった場合には、地域及び基地従業員の安全が担保される、または不安を払拭できる説明、専門的な用語ではなくて一市民が話を聞いて資料を読んで一語一句理解できるような説明責任が必要なのではないかと。まあ、なによりも安全対策が万全に取られることが重要だと考えています。万が一に備えての緊急避難するための米軍を含めた日米各分野の専門家によるマニュアル作りも早急にやらなければいけないのではないかと。

4点目ですがもう一つ重要な点は雇用の問題、この問題は基地従業員だけの問題ではありません。横須賀の産業としての問題としてとらえていただきたいと思います。従来、通常型空母の定期改修工事は横須賀基地内で基地従業員と市内の造船事業者で行われていました。しかし、原子力空母の定期改修は米国内で行われることから基地従業員や造船事業者の雇用に関する影響を今後精査し、必要な雇用確保や本市産業に対する振興措置を国に対して強く求めるべきではないかというふうにも思っているところです。最後になりますけれども責任ある米側の回答を求めると同時に、万一の際の原子力軍艦の事故に対し防災避難計画に米軍の参加は不可欠であると考えていますので、そのことを強く市長として米側に伝えていただきたいと思います。長くなりましたがこれで終わります。

廣川部長

どうもありがとうございました。はい、どうぞお願いいたします。

発言者5番

まず始めに基地問題に関し市長就任以来、国と地元横須賀の狭間に入り基地を抱える市長としてのご労苦に対し敬意を表したいと思っております。今回の意見を聞く会におきましては市民には非公開とし意見の発言しやすい場を設定していただき感謝申し上げます。さて今回の原子力空母配備問題に関しましては、私は恒久平和を願うひとりですが、この問題についてはなにがなんでも反対とか拒否する立場はとっておりません。原子力空母配備につきましては日米両政府間においてすでに決定しており、市民にとって一番大事なものはあくまでも空母の安全性だと認識しております。

現在、神奈川県と横須賀市で原子力艦の安全性に関する17項目の質問書を国に提出したところですが確認がとれれば国益のためにもまたアジア地域の秩序を守るためにも原子力艦の配備は止むを得ないものと考えております。また、市長はこの問題に関して当初より通常型空母配備で強く求められておりますが市長が訪米したり、市議会議員や経済界のメンバーが訪米したりして話が進展しております。この件に関しましても原子力空母の安

全性の確認がとれ、市長が誠意をもって市民に説得、説明すれば原子力空母配備について市民も納得してくれるのではないか。以上これは私個人の意見でしてわが会の決議ではございません。

廣川部長

ありがとうございました。はい。

発言者6番

市長に説明する資料としてこの週末をかけて資料を用意してございます。これを引用して述べたいと思いますので、市長ほか出席者の皆様にも参考資料としてお借りすることをお許しください。

(資料配布)

もし足りなければあとでお申し出ください。わが会を代表して発言させていただきます。蒲谷市長そしてご出席の皆さん、あと2年後の2008年にここから1キロとはなれていない横須賀基地に米海軍は原子力空母を母港化しようとしています。しかし原子力空母は陸上の原発よりもはるかに原子炉事故の危険性が大きいものですし、それが母港化され放射能作業がおこなわれることが放射能汚染の可能性を格段に高めるものです。これに対して市民の中に広く原子力空母 NO の声と署名運動がひろがり、蒲谷市長も通常型配備を求めて原子力空母の母港に反対し、横須賀市議会も全会一致で原子力空母の配備合意の撤回を求める意見書を決議してきた重荷は限りなく大きいものです。にもかかわらず今回、市が唐突にこの意見を聞く会を一般市民に公開せず、団体関係者のみで2週間という団体意見の集約もかなり困難な通知により開催したことは、多くの市民から疑問が寄せられています。先ほどの再度開催ということについては私たちは心から歓迎するものです。

さて先月アメリカの原子力軍艦の安全性に関する文書・ファクトシートが横須賀市に届けられ、それをもって安全性が確認されたとする意見の人たちがいます。しかしこのファクトシートはいままで全て発表されてきた米海軍の発表を要約しただけのものであります。新しい内容はありません。米海軍の有利な抽象的な情報のみで肝心の安全性の検証のために必要な原子炉の構造等の具体的な情報はありません。米海軍の原子炉がこれまでに数多くのトラブルや放射能漏れを起こしてきたというその危険性を示す事実には全くふれていません。

そこで、これまでに明らかになっている多数の事故に基づきこの資料としてつけましたファクトシートへの反論書を作成いたしました。是非ご覧になってください。そして蒲谷市長もこ

ここに添付しました新聞記事にも述べておられますように原子炉事故の事故は起きないといわれても、やっぱり事故は起きる可能性はあるとおっしゃっております。その実例としてこのお付けしましたこの資料にありますように99年11月に今回訪米団が行かれたアメリカの原子力空母の母港であるサンディエゴで出港直後の原子力空母のステニスが浅瀬を航行した際に原子炉を冷やす海水の取り入れ口から泥が浸入した。たったそれだけの事故で原子炉が2基とも緊急停止したのです。これによって原子炉の温度が上昇しメルトダウンとなる危険性がありました。横須賀でも同様の事故によって市街地が放射能汚染にさらされる危険性があること、さらにアメリカ海軍はこの事故について発表していますが、後日公開された事故記録によると一部事実と違ったことを公開していたことがあきらかになりました。そして米海軍の原子力艦船、造船所の現場は、四角いパンフレットにふれていますようにちょうど日本の原発と同じようにたくさんの事故、放射能漏れ、作業員の被曝、水兵による破壊行為等のトラブルの連続であるという空恐ろしい現状であります。

しかも日本の原発は日本の原発関係の法律が適用され、日本政府にすべての情報が公開され安全検査を行って現在かろうじて事故が防止されているという現状だろうと思われま

す。

米海軍の原子炉は原発よりもはるかに過酷な条件で稼働しつづけるにもかかわらず、日本政府や自治体による安全検査体制もなく情報公開もないまったくのブラックボックス状態なのです。このような秘密主義の中でどうやって原子炉の安全性が検証できるのでしょうか？そして米海軍の原子炉事故は起こらないからという理由で、市の事故対策も市との協定もいないという、そういう一点張りの現状であります。もし横須賀で原子炉事故が起こったら市内一体が死の灰で汚染されることになります。チェルノブイリ事故とおなじように時間がたてばたつほどガンなどによる死者が増えていくのです。

この中に四角いパンフレットにありますように、ジャクソン・デービスレポートによれば、その死者は全体で数万人におよぶといえます。さらに建物、工場、住宅、地面が汚染されれば数年間は立ち入ることが出来なくなってしまう、農業や漁業も極めて困難になってしまい、その経済的被害は数兆円におよぶと推定されていますが、残念ながらほとんどの物的損害については日本政府が保証するのではなく、直接アメリカに請求しろということに日米間の取り決めでなっています。

さらに死の灰が放出されるような原子炉事故でなくても、この四角いパンフレットにありますように米軍の原子炉ではたびたび原子炉事故がおこっております。いったん母港になってしまうと原子炉事故でなくても低レベルの放射能が徐々に市内の大気、排水、土壤に放出されて環境を汚染し、基地労働者や周辺の私たちが重大な健康被害を受ける恐れがあ

るのです。また通常型空母が原子力空母になると、原子炉の作業はさきほどありましたように米国人にしかさせません。そのために別紙この建設産業新聞に書いてありますように基地従業員の雇用減少や関連業界の仕事減少につながりかねない面があります。

もし原子力空母の母港を一旦受け入れてしまったら、私達市民はこれから数十年に渡ってこのような放射能事故に対する恐れという重大な脅威を受け続けることになるのです。そしてまさにこの問題は米国産牛肉の輸入問題と類似しています。例えばアメリカ国内で多くの軍人や市民が原子力空母に不安を持っていない、だから安全なんだという主張があります。しかしそれは米国内では米国産牛肉を皆が安心して食べているから安全で輸入してよいのだ、という米国政府の主張とそっくりではないでしょうか。

多くの航空機、鉄道、原子炉事故と同様にいまなら批判的な検証することなく安全だと言う宣伝を鵜呑みにして、危険性のある米海軍の原子炉を容認してしまうことこそが、将来私達が家族、子孫達に重大な事故の危険をまねくものとなりかねません。それだけでなく今安易に原子力空母の母港を容認してしまうことは、事故防災の観点からも原子炉が海軍の原子炉が、市民や自治体から全くのブラックボックス状態になるという危険な現状を永久に固定化しかねないものなのです。

蒲谷市長、このお付けしました神奈川新聞の今年1月の世論調査によれば市民の過半数約6割は原子力空母母港化に反対しており、女性や若年層になればなるほどその割合は高いとのことです。ですのでそういう方たちの意見も次回聞いてみて下さい。そして市民はこの間の様々な動きを大きな不安の目をもって見えています。

これまで横須賀市政は長年にわたり公開と市民参加を推進し、地方自治のトップランナーとして標榜され市民の多くの支持を得てきました。したがってこのような形の市民への公開と参加を推進させたような形を是非取っていただきたい。

そして今回の開催方法については、特にたった2週間の期間しかありませんでした。みなさんご苦勞はされたと思いますが各団体でどれだけの意見集約が本当になされたのでしょうか。そして市長の求めている通常型空母配備の可能性も十分にあるのです。お付けしました別紙報告書に十分可能性があるというふうに書いてある報告書のとおり、現在米国議会は2006年の会計年度国防認可法によって、空母12隻体制の維持と通常型ケネディの艦命延長工事を海軍に命じています。これに対して海軍は再度ケネディの退役を計画していますが、これに対しても現在議会の中で地元フロリダの上院議員、下院議員から反対の動きが開始されているのです。一方でケネディの母港のメイポートでは同基地を原子力空母の母港とする手続きが開始されています。ですからケネディが生き残ればそれはあくとい

うことになるのです。あるいはキティ・ホークの艦命延長工事をするという選択肢もあるのであります。

したがって蒲谷市長が原子力空母の母港化に必要な浚渫工事をストップすることのできる港湾管理権これを盾にして日本政府に強く再交渉を求めれば、あと2年の間に通常型空母が横須賀配備の可能性も十分に残っているのです。そのためにすでに協議がなされた12号バース延長工事についても協議内容が変更された場合、原子力空母が使用する場合には、再協議するとされているではありませんか。また横須賀港内のヘドロには有害重金属が堆積されているのです。汚染拡大につながる浚渫工事は港湾法の環境保全の目的第1条の目的そのものから不許可にできるではありませんか。

市民は今市長にあきらめて屈するのではなく、あなたの持つ市長としての力をバックに勇気を持って自ら汗を流して国にダイナミックに働きかけをして最後まであきらめずに原子力空母ストップのために市民のため全力で頑張ることを強く望んでいるのです。そしてこのような市民の意思を確認するため一般市民から広く意見を求める形、パブリックコメント、市民アンケート、原子力空母問題にしばった市民ミーティングそして住民投票などの手段を、是非とってください。また一般市民の傍聴参加発言を認める、より公開性を高めた市民の意見を聞く会を開いてください。

安全性の検証については私達もアメリカから7月に専門家を呼びます。原子力関係の専門家の意見を聞くなどこの会を今回で終わらせず、あと2年間続けてください。2008年まであと2年あります。私達市民全体の将来にわたる安全を守るためにはこれまでの市長、市議会、市民一体となった原子力空母NOの取り組みが今まで以上に市民から強く望まれています。

蒲谷市長、ご出席の皆さん、一般市民はやはり原子力空母の母港はいやであり、容認してほしくないと願っています。くれぐれもそのような市民の安全を願う本音そして本意にそった行動を取っていただくようお願いいたします。どうもありがとうございました。

廣川部長

どうもご発言ありがとうございました。そのほかございますか。はい、どうぞ。

発言者7番

私どもの会としましても、原子力空母については反対という立場でこれまでも取り組んできましたし、これからもそういった方向で取り組んでいきたいという姿勢でございます。そういった意味で先ほどから出ていますように安全性の担保、そして不安の払拭とそういったも

のを100%保障ない限り市としては容認するというような態度にならないように是非この場でお願いをしていく次第です。

さらにこの横須賀だけではなくて三浦半島を眺めてみますとほとんどの自治体でこの原子力空母の反対の決議をそれぞれの議会でされておる訳でございます、一横須賀だけにとらわれずにも少し広範囲な意見も聞いていただければというふうに思っているところでございます。それもあわせてお願いしておく次第でございます。

それから先程らいから出ておりますけれども、物言わぬ大多数の方々、いわゆるサイレントマジョリティと言われている方々の意見をですねもう1回と言わずに、公募あるいは明日のタウンミーティングでも結構でございますのでいろんな方のいろんなご意見をこれからも続けていっていただきたいと思っております。

あくまでも反対の立場でいろんな意見があるいはミーティングを開いていただければありがたいというふうに考えております。容認の判断ということだけは是非避けていただきたいというふうに思っております。

また、ファクトシートによりますとですね、万が一事故があっても被害は基地内に留まるといった文書もありますけど、まあ基地内に留まるといってもですねその確証もない訳でございます、基地内に仮に留まってもその基地の中には多くの市民の方が従事している訳でございます。そういった方々が被害を受ける形にもなる訳でございます。万が一事故があってもということもなくすような努力も万が一の事故もないとそういった確証がない限りやはり認めるべきではないと思っておりますし、そういった方向で是非取り組んでいただければと思っております。わが会としましては3月の16日と17日に意見広告ということで、神奈川新聞に広告をのせていただきました。中央駅の駅頭で、そういった行動もさせていただいたところでございますが、本日そういった資料も手元にありますので後ほど参考にさせていただくために市長のほうにお渡しさせていただければというふうに思っております。是非また参考にさせていただければというふうに思っております。以上です。

廣川部長

ご発言ありがとうございました。その他ご発言はございますでしょうか。それではこちらの方どうぞ。

発言者8番

私の全く個人的な意見を述べさせていただきます。まず私の意見を述べる前提ですが、

まずひとつは皆さんと同じかと思いますが、日米の安保条約これは否定しない。肯定いたします。

二つ目は東アジア、東南アジア、中東、インド洋におけるアメリカ軍のプレゼンスこれは非常に重要であるし、特に空母の存在価値これを非常に高く評価するという立場であります。

三つ目安全性に100%はないということです。私はその3点に立って自分の意見を述べさせていただきます。

まずはファクトシートについて、ファクトシートを見させていただきました。これは率直に言えば子供だましのだと思います。

若干日本の科学技術レベルこれを軽視した内容だと私は思いました。国家機密にかかわる分野は当然公開は困難、ですからある程度は仕方ない部分があると思いますけれども、少なくとも原子力発電に関して若干でも知識を持っている日本人であればこのファクトシートの内容では非常に不満足であります。抽象的な内容、日本的に言えば浪花節的な内容でありまして、安全の根拠となる物理的な説明と数字的説明がなされておられません。ファクトシートについてはそのように感じました。

二番目に100%な安全の確保とは非現実的でこんなことはあり得ないです。不可能であるということです。一番安全なものと言われていましたアメリカのスペースシャトル、コロンビア号チャレンジャー号。コロンビア号については大気圏再突入の時に事故を起こしました。チャレンジャーについては発射直後に事故を起こして尊い飛行士の命を奪われました。このスペースシャトルの安全率、ご存知と思いますが99.9999%というそれほど高い安全性が保障されるというものでした。しかしながら実際は事故を起こしてしまいました。爆発いたしました。空飛ぶいわゆる旅客機、これは人命を預かっている訳ですから安全性を確保いたしております。事故は起きる訳ですね。絶対飛行機に事故はないとは言えない。起きている訳です。これは人為的であれ物理的であれ事故は発生するというものです。皆さんも家庭で卓上ボンベを使うことがあると思います。テーブルですね。これは100%安全でしょうか。まかり間違えれば大爆発を起こします。それでも皆さん家庭で使っているわけですね。それから高速道路を自動車で走ります。電車にも乗ります。

100%安全でしょうか。これらが全部事故がなかったといえましょうか。必ず事故はありますね。事故はあると前提にたたないといけないと思う。あつてはいけないけれども。100%の安全性が保障されないなら、そのものは価値が無いのだと、だからそういうものを使用してはならないのだという理論に立てば使う物はなんにもありません。電車も乗れません。飛行

機も乗れません。あつてはいけないけれども 100%安全だということはこの世にはないのだと。そのための手段はいろいろしなくてはいけないと思うのですけれど、そういう前提でものは考えていかなければと思うのです。100%安全を保障されなければおれはいやだ。という人は飛行機に乗らなければいいのです。電車も乗らなければいいのです。原子力空母だって 100%の安全性を保障できる根拠もありません。データもありません。だから原子力空母は危ないのだ。だから僕は反対だよ。と一概に判断するのはいかがなものでしょうか。

今申し上げましたように飛行機は自然の摂理に反して重力に逆らって飛んでいるのだから危ない。危険を冒しているのだよ、と今申し上げましたように沖縄へ行くよおれは怖いからいやだよ、電車と船で行くよ、ちょっと待ってよ船だつてくじらにぶつかって事故を起こしているではないですか。電車だつていっぱい事故があるじゃないですか。起こしているじゃないですか。それと同じです。全部 100%安全性はないのです。だから米海軍の原子力空母のアジアにおけるプレゼンス、この重要性と必要性は認めるけれども横須賀母港は反対。なぜか安全性に問題があるからという方がたくさんおります。これは日本人特有の総論賛成、各論反対ということで横須賀はだめだよ、横須賀以外ならいいというこれはあまりにも我がままではないでしょうか。空気と安全はただだという日本の感覚そのものではないでしょうか。そんなことを言ったら世界で受け入れられるものではないということです。安全というものはある程度の犠牲のうえに成り立っているとふうに考えていかなければならないのではと私は思います。

このたびのファクトシートについても必ずしも満足のいく内容ではありませんけれども、信頼し信用することも大切なことだろうと思います。国防上のコンフィデンシャルだとか機密だとか極秘だとかこういう問題をアメリカはブラックボックス化し日本には教えてくれません。だつて仕方ない、現在の日本の法体制下において日本に教えてくれませんよ。シークレット、コンフィデンシャルなことはだから今日本の国は全部教えてくれといってもアメリカは教えてくれません。日本に教えれば秘密が全部ばれてしまう。そういうことはアメリカはやらないと思う。お互いが信頼していかなければいけないような気がするのです。

長くなりましたが、今回の原子力空母の問題は横須賀市だけの問題ではなく日本全部の問題ですので、しかしその所管は日本政府にあるということです。ただ日本政府に全部任せるというのではなくて、民主主義の時代ですから私、横須賀市民はできるだけ安全性に対する追求、説明してくれという要望はいたしますけれどもあくまでもこれは政府の専管事項です。今度原子力空母ジョージ・ワシントンがくるというお話ですけれども、それがはつきりするまでは、我々としての意見は述べるけれども、決まったらそれに従う、そういう態度でいかなければならないのではないかと思うのであります。私ども蒲谷市長を頂いています。

私どもが直接選挙で選んだ市長なのです。この市長を信じないようであれば、これは民主主義の崩壊です。私達は民主主義の中に生きているわけです。決定するまでは自由に意見を述べましょう。決まったらその方向に一丸となって市長を支えて行きましょう。今後とも市長に頑張っていただきたい。いうふうに思います。長くなりました失礼いたしました。

廣川部長

ご発言ありがとうございました。他にご発言はございますか。はいどうぞ。

発言者9番

私お願いっていうか、お聞きしたいのですけれども、即答はできないと思うのですが、まず第一番にですね原子力エンジンの仕組みを知らないのですけれども、潜水艦、原子力潜水艦は入港する前に湾外でメインエンジンは停止して入ってくるところ聞いたのですけれどもその点、空母が入ってきたら横須賀港内でまたメインエンジンを止めるかそのまま入ってくるかこれを教えていただきたいと。

それから次に温排水を港内に入ってきて出さないかこの点を知りたい。なぜかという温排水を出されると港の中の水産と植物、これに非常に影響があって、いいことあっても100分の1、ほとんど影響がおかしく出て、それがまた汚染されたということになったら、我々一番困るのが魚は取れますけれど、値段がほとんどつかないと思うのです。これが一番心配なのです。これができたらお知らせ願いたいと。

それから先ほどある方が言われましたね、空母が新しくなったのが入ってくると港の浚渫、多分横須賀軍港は昔から軍港であって鉛とかいろいろ公害の泥が堆積していると思うのです。これがある程度流失して港の外まで出てきてえらい迷惑するということと、いま、なんですか米軍基地が非常に警戒が厳しいですね。我々50ヤードまでとそれより中は入りませんけれども50ヤード線外で操業していると非常に厳しく警戒されている状態です。商売が出来ない状態です。その辺もお調べいただいております。

廣川部長

ご発言ありがとうございました。他にご意見はありますか。はい、どうぞ。

発言者10番

今回の聞く会には横須賀市内の方がほとんどですが、私のように県団体のものをこの会にお呼びくださいまして誠にありがとうございます。私どもはこの原子力空母の話が一般の新聞紙上、マスコミに出る前からアメリカからの情報で知っておりました。大変心配しており

まして、今までも学習会、そしてシンポジウムなども度重ねてまいりました。私どもは3月の末から4月にかけて基地を返せ市民の行進をということで神奈川県のあるところ横須賀も逗子も相模原も厚木も座間も皆歩きながらリレー式にそして国会へまた防衛庁へまた外務省へと要請してまいり、私は外務省へ直に要請することができました。

そういう中でさる4月の4日ですかアメリカ軍の司令官が商工会議所に行かれてお話しをされたと新聞記事見ました。市民の命の問題では大変皆様心配されていますこの原子力空母は危険ではないと、安全だというようなお話が載っておりましたが、私達はそれについて原子力発電所が横須賀の真ん中にくるのではないというお話ですけど、そもそも原子力発電所は日本政府としては横須賀市には作ることは出来ないのです。横須賀湾に持つてくることは出来ない。そういうように作ってはいけないところに原子力発電所並みの原子力空母が入るといことはいかにして危険であるということが考えられます。絶対に原子力空母の横須賀配備は認められません。是非とも市長さんは市民との公約通りに最後まで原子力配備に対して反対していただきたいと思うのです。

1980年代から米原子力艦船は20回も事故を起こしています。そのうち11回は放射能漏れ事故があつて基地に出ていないからと米軍は言われますが、そういうことはだれも信じておりません。ましてや1990年のサンディエゴの原子炉が座礁した事件、これは外務省にいきますと、あれは事故ではないと言われているのですが原子炉が止まって動けないということは大事故のはずです。それを事故ではないという日本政府のアメリカ軍を信頼せよということも全く信頼することはできません。

そして4月17日に米政府作成のファクトシートこれにつきましては、先程らいからいろいろな方がご意見を伺われましたけれど、私どももこの会の代表委員をしております横須賀市の物理学者からの批判に対する抜粋も横須賀市に届けてあると思いますが、これを見ただけでも素人の私でも全然安全性は回答になっていないというふうに思います。

日本は非核三原則を国是としています。神奈川県も非核兵器宣言を持っています。神奈川県をはじめ神奈川県内の自治体は全部、これは全国でもまれですが非核自治体です。

そういう中でアメリカの艦船が入ってくる、すでに1953年米空母のオリスカは横須賀に入港しその時核兵器を搭載していた。1965年空母タイコンデロガ事件は、そして1973年空母ミッドウェイが核を積んで来た。これはすでにアメリカの公文書で発表されております。がその当時のライシャワー発言に対し横須賀のお母さん達が怒りました。神奈川県中の母親、女性達が怒って横須賀中央駅前にテントを張り1週間の座り込みをしました。大勢の人々が激励に全県から全国から駆けつけてくれました。そして何年かたった米公文書の発表で

やはり核兵器は持ち込まれていたのだということを確認している次第です。皆さんもご存知だと思いますが非核神戸方式という神戸港にはこの30年近くアメリカの艦船は一隻たりとも入っていません。核兵器は持っていないという証明書を出さない限り入れないという、こういう神戸市民が作った法律の中で入って来られない。となりの姫路市にも入った大阪港にも入った日本全国の主要な港には全部軍港でなくてもアメリカの軍艦はこの何年かは入ってきている。そんな中で入ってこられないのは非核神戸方式です。この原潜は横須賀に入ってきたそれは742回も入り去年は17回125日滞在しています。今年は2回です。

—昨年7月佐世保で原潜ラホヤが火災を起こしました。また1月にはサンフランシスコが海底衝突の事故を起こしました。原子力空母も心配、原潜も心配こういうような状況です。

次に市民の、県民の気持ちを伝えたいと思います。横須賀市民は神奈川県民は本当に平和を望んでいます。この原子力空母による基地の強化は不安と危険をもたらしております。私どもは長年51年間核兵器をなくせと運動してきた団体です。国内だけではなく世界中の人々と手をつなぐそして国連総会に向けて何回も代表団を送り出し、核兵器をなくす運動をしてきた団体です。毎月6日と9日広島、長崎の日には署名行動をしながら市民に訴えてきました。私も横須賀、常時は横浜で・・・

廣川部長

ご発言中でございますけれども、恐れ入りますけれども手短にお願いできますでしょうか。

すみません。ですが横須賀中央駅でチラシを配り、署名をお願いして原子力空母のことを話しますと、お母さん達は本当に子供の手を引きながら心配して署名をしておられます。自衛隊の方もそれから自分は基地で働いているのだけれども原子力空母だけは止めてほしいとおっしゃいます。まずは原子力空母に反対し、みんなの力で平和な町にして行きたい。是非市長さんは頑張ってください。座間の市長さんも相模原の市長さんも岩国の市長さんも皆市民の命を守りたい一心でいろいろなことがありますけれども、市民の意見を国にあげてらっしゃいます。どうぞよろしく願いいたします。

廣川部長

ご発言ありがとうございました。はいどうぞお願いいたします。

発言者 11 番

先月16日から20日までサンディエゴ、コロナド市を訪問してまいりましたが、原子力と聞くとおあやだなど、そんなのは横須賀に来てほしくないというそのような気持ちでおりまし

た。しかし実際にその一見は百聞にしかずといわれますので1回どんな具合なのか見てみようと思いしました。ロサンゼルスからサンディエゴまでの間にフリーウェイ、高速道路の横にサンオノフレ原子力発電所がございました。これは日本で静岡県にある掛川からいったところの原子力発電所、前に見学したことがあるのですけれども。非常に厳重な警護と周りも堅固な建物で作られておりましたが、この高速道路のすぐ脇に無造作にあるものを見ましてアメリカというのは原子力発電に対する考えが日本とは違うのかなという考えを持ちました。そして実際にサンディエゴに伺いましてサンディエゴ市の中心街というのはほんともうその原子力空母が停泊しているところから1キロとないところにありますし、その対岸のコロナド市なども原子力空母が停泊しているすぐその横にはヨットハーバーがありまして、そのほかにも客船等も停泊してしておりました。

そういう中で両市の商工会議所の方とか市長さんのお話を聞いて、本当に我々が心配しているようなものはあまり持っていないのだなというふうにはお話とかそういうところで感じてまいりましたが、実際に運用している方々のお話も伺って、ニミッツの次期艦長になるマイケル・マネザー大佐などはこの50年事故なしの実績があるのは安全設計に加え運用する人間の質が高く、教育もしていると、リスクを許さない教育は海軍で最高レベルだなどというお話も聞いてまいりました。全体の海軍の艦船の最高責任者であるジェームス・ゾートマン中将が安全運用をしないと誰からも信頼されないと、そして自分も空母から2ブロックの官舎に住んでいる。我々も原子力空母を見させていただいたのですけれど炉のすぐ上に食堂がありまして、皆さんそういう心配なしに日常の生活をされている。そういうのを見てるとこちらが当初抱いていたおっかないという心配はどうも、しっかりした管理をすればいいのかなというふうに感じて帰って来た訳であります。

ただ日本がこの60年間大きな戦争にも巻き込まれず太平洋戦争以後平和にすごしてき、またこれだけ豊かな生活が出来ているのもマラッカ海峡から石油をあれだけ運んでいて先程のお話にありましたようにアメリカの傘のもとにいるという。傭兵の国は長い繁栄は築けないと、これは傭兵とは兵を雇うそういうところからいうと、日本の国を守ることからもっと根本的な論議していかないというふうには思いますけれど、今回のこの原子力空母の配備については我々がいまこの生活を維持していくには、そのためには受け入れざるを得ないのかなというふうに考えております。ただそのためにはしっかりと危機管理をしていただきたい。このように考えております。以上です。

廣川部長

どうもありがとうございました。はい、どうぞお願いいたします。

発言者 12 番

傘下の会の意見を集約した訳でございませんので私一市民として発言させていただきます。まずファクトシートでございますがこれはインターネットで公開されております。私もダウンロードして見ました。これを見る限り先程らい出ておりますように安全だからこれからも事故がない、安全だから信じなさいとこれはちょっといただけない。これではたして横須賀、私達横須賀市民の命が守られるのか非常に不安でございます。

一方私もですね先程らい出ているように日米安保、日米関係これは非常に重要な国の問題です。近頃は日本人の心の中まで食い込んで、とやかくいうような困った外国が近くにあります。日米関係というものは非常に重要視していかなければいけない。そういう立場からしますと、原子力空母には反対ですけれども、何が何でも反対かというところまでは私は言いません。ウェルカムとはいはなくても、出来るだけ来てほしくない。そのためには市長のお立場もありましょうけれども国なり米軍なりに最後の最後まで通常艦で頑張っていたきたい。そのうえでどうしてもだめだということになれば私は市長を選挙で押した手前支持をいたします。市長、頑張っていたきたいと思います。

それからですね今日も駅前その他で反対派の方が、活動家の方がビラを配っておりました。私どもの町内にも活動家がいらっしゃいます。今回のこの問題についても一生懸命署名を集めております。先程らい出ていますように原子力空母は危険だ、そして反対派の方はこういう綺麗なもの(カラーのチラシ)を配るのですね、こういうものをもって説得するのですよ。ですからいくら署名を集めたといっても、危険だ危険だと言われると、そんなものかなと、普段顔をあわせている人が署名お願いしますと行って来ると、まあ付き合いだからといって付き合い署名もその署名の中にはあるということを一とつご承知いただきたい。

6月8日にまたこういう会をもよおすと一般公募でありましたね、その時にはどちらかというと活動家の方だけがこういうものを配ってPRするとどうしてもそちらに無関心の人がいつてしまう。実際私ども毎日町内歩いていますとこの問題を十数人に聞いてみました。はっきり私は反対だと言う人は2人くらいしかなくて、あとの方はそんな問題会長のほうに任せよ、任せられても困るのでありますが。ようは無関心層が多いから、市民を公募してもおそらく関心のある人はそういうどちらかといえば反対、活動家グループの人が多く来ると思われるのです。もっと市民にもですねこういうもっと負けられないような資料を作ってメリットはこうだ、デメリットはこうだとしないと偏った宣伝になってしまいます。ということ市の方にも考えてもらってそうすれば公平な人が集まるのではないかと、この問題について広く知ってもらえるのではないかと、ちょっとその辺、ちょっと市のほうにも広報してもらいたい必要があるのではないかと。以上でございます。

廣川部長

どうもありがとうございました。はい、次の方どうぞ。

発言者 13 番

私も先月 16 日からサンディエゴそれからコロナドの現地を訪れました。基地はコロナドにありまして対岸がサンディエゴということでございますが、そこに原子力空母としては私どもが乗船しましたステニスとニミッツというふたつの空母が停泊しておりました。サンディエゴの対岸までだいたい 500 メートルそれからそこには一杯サンディエゴの町の施設がありまして、もうひとつは基地のすぐ横はコロナドの町ですね、基地のそばには一般の住宅街になっておりまして、そこは南カリフォルニアでも一番地価が高いというそういうところだと言っておりました。ごく自然な景色というかそういうことで一般の市民の方とお話する機会はございませんでしたが、原子力空母または原子力潜水艦もございましたけれども自然な形で私どもの目に入ってくるようなそんな風景でございました。いわゆるサンディエゴ市民にしるコロナド市民にしる原子力というものについて全く皆さんが無知ということもございませんでしょうし、いろんなことをきちんとどこまでそのばらつきはございますでしょうけれども原子力というものに関してある感覚を皆さんがおもちで、こういったひとつの歴史の中からコンセンサスができているのかなとそういう実感をいただきました。

いま原子力空母ということがいろいろいわれていますが、ここからちょっともちろんいまのは私がある程度事実を上手に表現しようとしてお話をさせていただきましたけれども、原子力というのはひとつのエネルギーでございまして、この使い方を私どもはアメリカがかつて非常にひどいことをした使い方の中である体験をしている訳ですけども、あくまでそれを上手に使うというかエネルギーでうまく使うという感覚でいいますと、だいぶうまく使えるようになってきたのかなと。石化燃料これは現存しております、石化燃料は確実にございますが、その中でも原子力をエネルギーとする発電というのは我々人類がかなりきちんとやってきた。いわゆる船を動かす力として原子力をエネルギーとして使うのも石化燃料がある中でこれもやはり上手にやっていく。それは私どもの原子力に対する制御する力、コントロールする力、ハンドリングする力がだんだんだんだんいわゆる人の力が付け加わってきているというプロセスの裏返しにほかならないのではというのが私の感覚でございます。

そういうことで原子力エネルギーをとらえていかなければいけないのではないかと思います。

ただ先程からありますようにいろいろこれは望むらくは万全でなければならない。プロセスといいますがそれをずいぶんと上手に制御する力がついてきているのだけでも、それをもう少しみんなできちんと確かめるということが大事ではないか。なんでもそうですが全く間違いの無い世界というのは無いわけでございまして、どれだけ小さいうちにほんとに小さいうちに上手に大きくならない内にうまく止めれるかと、いわゆるそういった観点で物事をもう少しみんなで見えていけばいいのではないかと。とんでもないような世界をいわれていますがわれわれはきちんとその制御できると、どうやって制御すればいいかという現実的な話をきちんとされればいいのではないかと、それでそのことのポイントはここここだな、原子炉の運転とかそういうことうまくわからない人たちにもポイントはこうですこうですと、なるほどこれはわかりやすいというようなことはやはりみんなで作らなくてはいけない。いわゆる人知を尽くして安全をみんなで確保するという世界はみんなで真剣にやればよいと思うのです。あるプロセスできちんと具体的なことをおやりになれば非常に分かりやすい世界みんなで作れていくのではないかとこのように思います。以上です。

廣川部長

ありがとうございました。次の方どうぞ。

発言者 14 番

前もってお断りしておきますけれど、この私の意見はわが会の意見を集約したものではありません。個人の意見です。まだうちの会ではまだこの問題取り上げたことがないのです。関心があるのかどうなのかわからないのですが、まだそういうとこまでいっておりません。

私の意見としましては通常型空母とおっしゃいますが、この退役が目の前にせまっているようなジョン F ケネディですか、これペンキで塗り固めたような余命いくばくも無いような通常型空母もって来られるんだしたら私いらないと思います。私 30 年も船に乗っております。船は生き物です。もう退役近くなった船がどのようなものか想像つきます。

こんな船を持ってきてもこれは戦争の抑止力にはなりません。安全保障の戦争抑止力のために持つてくるのであれば、今こういう時代ですから通常型空母は作らないといっていますね。手遅れなのですね、もう原子力空母の時代になっております。みなさんもいろいろ意見を言っておられましたけれど、事故は 100%無いとは言えないのです。これがいかに事故を起こさないようにするのが運用する運用管理が大事だと思います。私は通常型はもういらない。原子力空母で実績のあるちゃんとした事故を起こさないようなものを持ってきてもらう。これは国が受けたのですから、市長も一生懸命に悩んでおられますけれど、もっと防衛庁あたりですね安全性を説明に足を運んできていただいて何回でも説明して

いただく、そして多くの人に納得していただいたうえで決めていただきたいと思っております。以上です。

廣川部長

ありがとうございました。どうぞ、お願いします。

発言者 15 番

私も個人的な意見を述べさせていただきます。いろいろご意見出ておりますけれど積極的に原子力空母を歓迎するというのは非常にまあ少数意見、皆無とは申しませんが少数意見ではないか。そうした中ですね、議会も市もですね通常艦を希望していた訳ですが、いろいろな報道等を見ますとこれがだんだん可能性が非常に低くなってきた。そうした中で実際問題として空母なくして米軍のプレゼンスが成り立つのかどうかという問題でございます。やはり日米安保の重要性を鑑みますとこれは容認せざるを得ないのかなあというのが私の意見でございます。

現実的にこの横須賀には原潜が過去何十年間に渡って年間何十回と入っています。ある程度安全性は確保されているのではないかなあと思っております。大きな事故も幸いにしてございません。それなりに安全対策がなされていると、確かに原子力空母となりますと規模が全然違うよということになるかと思えますけれど、そこら辺につきましては、より限りなく安全性の追求等もなされて、それからまた横須賀市としてもこれは国と国との国防上の問題でございますので、やはり国に対してより市民が納得するような、また理解するような説明を求めていくという態度がのぞましいのではないかなと思います。終わります。

廣川部長

ありがとうございました。はい、どうぞ。

発言者 16 番

私も、わが会でこの問題について集約しておりませんので個人的な意見として発言させていただきます。この原子力空母の件に関しましては一自治体で云々するということはそれなりに意味があろうかと思えますが、こういったものを集約して国にあげるということは結構だと思えます。基本的に外交、防衛というのは国の責任である。国でもって受け入れると決定したら、それに意見はあげといて、従うのは法治国民ではないかと思っております。原子力につきまして先程らい活動家の方達が市民の何割が反対だ、当たり前ではないですか。アンケートで原子力空母来るのは反対ですかと聞けば誰だって賛成ですという人はいませんよ。そういうものを持ってきて市民が云々という言葉をつかいますけど、止めていただきたい

いですね。私自体はあくまでも日米の安保条約に基づいてこの国を米国が守ってくれているのですよね。そういったこと、それから隣の国で、すでに中国にしろロシアにしろ原潜をもっている。この前の尖閣諸島においても原子力潜水艦が追跡逃れて逃げしまった。というようなことが現実にある。竹島も占拠されている。やはり国の防衛、国益といったことを考えてこの問題を考えるべきではないか。

原子力空母または変に商売にくっ付けて反対だ賛成だというのはおかしいのではないか、やはり国の基本的な防衛ということに関しましてはそれなりに日本の場合はアメリカに守ってもらっているということを頭においてこれを忘れてはいけないと思います。ドイツの場合は原子力反対だ発電所もですね、ところが化石燃料がだんだんなくなってきてまた原子力に変えてきている。そういうことだと忘れないうでいただきたい。以上です。

廣川部長

ありがとうございました。そのほかご発言ありますでしょうか。はい、どうぞ。

発言者 17 番

この原子力空母寄港受け入れにつきましては容認するという立場で述べさせていただきます。いままでの経緯からして通常型空母というのは絶望的だとかこういうふうに私としては考えたところであります。核そのものを推進力とする空母ですから当然原子炉を搭載しているということがございます。原子力というとみんな大変不安はありますけれど、過去を振り返って見ると昭和 40 年頃、原子力空母潜水艦問題で全国的に反対運動がありまして、横須賀そのものも相当デモだとかいろんな反対運動を経験して、いろいろな意味で高い月謝を払って今日に来ているという流れがあります。反対運動もまだ消えてはいませんが、われわれとすれば通常型の空母というのはすでに考えられないようになっていますから、原子力空母を受け入れていくというような立場であくまでも条件は横須賀市も出していかなければならないのではないかと思います。受け入れるという立場で、当然防災だとか安全面この辺は聞きだせることはしていただきたい、また地域の振興につながるようなですね方策というのを取って逆に横須賀に有利になるような方策を進めてきていただきたいと思ます。以上であります。

廣川部長

ありがとうございました。そのほかご意見ありますでしょうか。はい、どうぞ。

発言者 18 番

これも私個人の意見ですのであらかじめ申し上げます。わが会は基地に近いものですか

ら住民感情として空母が安全であるということが十分理解されていない現状にあって不安が先行しているのが実情です。従って原子力空母が安全であるということについて行政側が具体的に説明をして、市民、町民にある不安感を払拭する必要があると思います。

またファクトシートにつきましても市民への認知度が全くなくて、従って外務省のコメントも通り一遍の説明としか思えません。私もファクトシートをコピーして持っております。

以上の点より市長には説明責任があると考えております。すなわち市長は所信表明におきまして安全な町づくりを掲げていて、市民が安全への不安を抱えているのは生き生きとすることも、元気になることもできません。私は市民の生命、財産を守ることは市のもっとも基本的な役割のひとつであると述べられております。従って市長が原子力空母は安全であるというふうに認識されているのであるならば、先に申し上げましたとおり具体的に説明して、今もっている不安感を払拭するというを是非やっていただきたい。このように切望します。以上です。

廣川部長

ありがとうございました。他にございませんか。はい、どうぞ。

発言者 19 番

私も個人的な意見となります。わが会としての意見調整はまだ出来ておりません。先程らい皆様からご発言ありましたように市長さん始め議員の方達も国やアメリカに交渉に行かれてその結果、方針は変わらないという基本的な回答になっているように思われます。基本的には通常型艦船を配備するということが一番望ましいのですが、これも先程らいの話から建造はされないと、原子力空母となってしまうということはですね、止むを得ないのではと私個人は思います。そのためにはですね先程らい安全性云々ということを言われておりますけれども、やはり専門のチェック機構これは国がやるのか県がやるのか、あるいは市がやるのか常に入・出港に関するチェック機構をやはり確立した中で安全性を常にチェックしていただきたいと思います。

いま原潜がしょっちゅう入っていますということになっておりますが、これの安全性のチェックはどこがやっておって、どのように管理されているのかこの辺を非常に疑問視しております。この原潜自体は何百回寄港されているとの話も出ておりますが、それがいままで事故などがなかったのかどうか、そういう点を十分くんで安全体制、安全管理というものをしていただければ市民も納得するのではないかなと思います。是非よろしく願いいたします。

廣川部長

ご発言ありがとうございました。一番向こうの方どうぞ。

発言者 20 番

先程からいろんな意見が出ておりますが、原子力の被害というのは大変なものだということとは私自身、現役のころ広島に3年ほどおりました現地の資料館だとか近所の方、お知り合いの方にも二次被曝でもお亡くなりになる方がいらっしゃる。非常に影響は大きいということは、私なりにいままでの人生で見たり聞いたりしております。

現在横須賀港に原子力空母が入るのは反対というおおまかな意見というか世間の情勢を見ていますと色々なジャーナリズム、その他のいろんな情報が流れているようですが、私も聞いたところの話になりますが、いまや原子力を潜水艦、空母につかうのは戦略的に常識になっていると聞いております。ですからほとんどの国がアメリカのみならず原子力をそういったものに安全に使用し、かつ非常に戦略的に効率のいい戦闘が出来るというふうに聞いております。

先程から話がありましたように原子力空母しか作らないというところまで発展している訳ですから、原子力空母についてそんなに心配することはないのではないかと。これを反対するという立場にはたっておりません。安全性が100%ということはありません。限りなく100%に近く安全性を追求しているのであれば納得できます。100%安全でなければだめだという考え方はちょっと同意できないものがあります。原子力空母受け入れるにあたっては、横須賀市では防災訓練も毎年やっている、そういった事前、事後の起きた時はどうする、起きる前はどのような予防措置がいいのかそういったことをよく検討してやっていくことが必要ではないかというふうに思っております。

廣川部長

ご発言ありがとうございました。他にご発言はありますでしょうか。はい、どうぞ。

発言者 21 番

今日9時に市役所に集まってくれと、どういうメンバーの方が集まられて、どういう意見が出るか疑問視しておりました。うちの方から出てきますと9時の会議ですと7時半には出発しないと時間に間に合わない。こちらの地区というのは西の地域で過疎地域、とかくいろんなことが忘れられているような地域でございます。今日、中央駅おりましたらビラ撒きと市役所の前で空母反対だというふうな団体の方が、それはそれぞれの立場でいろいろ主張されるのでこれは止むを得ないことだと思うのですが、市長さんが就任されてまず第一に原子

力空母の問題が出まして、私達はこの空母の関係で市長さんが一般の市政の仕事というものの妨げになるのではないかと非常に懸念していた。こういう問題については見通しをつけて意思決定をされた方がベターではないか。そういうふうに思います。

こちらの席にみんな地域の代表の方がおられますけど、おおかたの意見をお察しますとやはりこれは市には議会がある。市長がいる、議会の議決によって市民の代表としての議会の声を尊重してどうあるべきかということ判断される。またこういう原子炉の問題についてはいろんな団体関係者からですね反対、賛成の意見が出ると思うのですが、とかく反対の意見というのはデモをやったりビラを撒いたりという現象がありますけれども、大体の人というのは常識の範囲でできるのではないかなというふうな考えではなからうかと思えます。

この原子力については市長さんも現地へ行かれて、商工会議所の代表の方、議会の方も現地へ行かれていろんな情報を入れて、そういったことで大方のこういった時代ですから原子炉もそんなに年中危険があったらとても推進することが出来ない。万が一ということがあっても、いまの社会でなにかにも完全だということはないと思う。万が一ということはこれは考えられますけれども、できるだけやっぱり科学的な面から安全性というものを、やはり市の方で確認していただいて皆さんがおっしゃるようにやはり安全性ということも市民に分かるように説明を機会をとらえてやっていただく。議会を中心にやはり市長さんが決断をされることだと思いますので、私達はやはり蒲谷市政が確立している訳ですから考え方をバックアップしていかないと進んで行かないと思います。ぜひとも広く皆さんの意見を聞かれまして最終的には部局の中でたまたましい判断をされて決定をされたらそのように思います。

廣川部長

ご発言ありがとうございました。続いてどうぞ。

発言者 22 番

いまお話があったように私も全く同感です。約2時間皆さんのご意見を聞きました。それまではほぼ白紙の状態での会に参加させていただきました。意見も順番に出ていて非常に気強い感じもしましたけど、私はいままで皆さんの意見を聞いて全く同じ意見ですが、うちの会でも意見を聞くとかそういうことはまだやっておりません。もしやるとしても全体的な意見はほぼ反対の方で、会を開いてもまとまりがつかないので、困ってしまうのではないかと感じております。

私はいま安全性の問題が出ておりますが、先程、話がありましたように安全ということは100%安全ということはないと思います。では先ほどの飛行機に乗るとか汽車にのるとかそういうのはなんでかという社会的安全、と絶対的安全と今議論しているのは絶対的安全を議論しているように感じます。100%安全ではないと言わざるを得ないと思います。ただ飛行機を使う、汽車を使うこれは社会的安全で確立、事故の確立が非常に低いから我々は使っているのだとそういう観点から物事を考えていかないと無理ではないかというように思います。もうひとつは横須賀の代表はやっぱり我々が市長を推薦したように、市議員が我々の代表だと思えます。これは議会で十分議論して得策を得て実行されたいかがかかと思えます。よろしくお願ひしたいと思えます。

廣川部長

ありがとうございます。次の方お願ひいたします。

発言者 23 番

わが会で意見をまとめたということはありません。わたしがなぜサンディエゴにお邪魔したかということでありませうけれど、実はどうも通常艦のあとの通常艦は難しい、原子力空母になるのではないかということが日米の会議でされておりました。このままだと市長さんも通常艦がのぞましいといいながらの状態で突然、原子力空母が入ってくるようになると全く横須賀は沖縄やごたごたしているようなところと同じようになりかねない。これは悲しむべきことであります。

横須賀はペリーが152年前に来たときのように、いつも日本の幕開けのような役割を果たしてきました。そういうとこで、このまま先送りしたり、あるいはある日突然原子力空母が入ってくることで皆さんが納得するようなことがないほうがいいのではないだろうか、もし通常艦、市長さんが望まれるあるいは議会も望んでおられた通常艦がキティ・ホークの後継艦として望めなくなった場合、原子力空母というのは本当に安全なのかなということ個人で疑問に思いました。そこで私は3月一人でサンディエゴに行きました。サンディエゴには先ほどのお話がありましたように2隻の原子力空母がおります。そこでサンディエゴ市は130万の人口と背後人口が400万であります。コロナド市という基地がある島は3万弱の小さな島でありますけれどもそこにほとんどの原子力空母や全ての基地があるのです。そういうとこへ行きましてまず軍の人でなくて両方の市の関係者、市長さん始め市の関係の方々と同じく、三日間でありますが話し合ってきました。基地の方々ともいろいろ話し合ってきた訳でありますけれども、どうも日本とアメリカで核に対する考えが全く違う、日本は核は広島、長崎なのです。アメリカは核はガソリンなのです。新しいエネルギーこれははっきり認識するしかない。私が3月お邪魔したときの向こうの反応は、なんであなた達はこの問題でガ

タガタするのだという話でありましたけれども、日本は世界で唯一つの被曝国だ、皆さんが考えているような簡単なことではないのだというお話も、こちらで反対された人よりもっと強く私は話しました。そんな経験がありまして、また帰ってまいりまして実はどうだろうか、この問題皆が見ないで話して、あるいは政府に働きかけているだけではなくサンディエゴまたはコロナドに行って現実を見たほうがはつきりするのではないだろうか、というお話をしましてわが会の方々も一緒に行こうと、これはわが会としての結論を出すような視察ではないということにしました。

専門家がないというご指摘がさっきありましたけれども、そこに、原子力の燃料を作っている方も一緒でした。帰ってきて私は現実はこうだよというふうに市会議員の各4会派の団長の方とあるいは議長、副議長の人と話してみると、自分たちもある日突然ということより安全については自分の目で確認したい、それを自分の支持者の人達に詳しく伝えるということが自分たちの責任であるというふうに判断されまして、一緒に行こうというお話しになりました。

米軍にどうだろうかと、私は見せてもらいましたけれど経済界の方々そして議会の主要4会派の団長さんに見せてくれないか、これがたまたまメディアの方にももれました。メディアの方から我々に見せないでこそこそするのはおかしいのではということになりまして、全てのメディアの方にご希望があれば一緒に行きましょう。私たちも別に賛成、反対と決めて行くわけではない。安全か安全でないか現実かどうかということで行く訳ですから、そういうことでメディアの方も希望する方はすべて一緒でした。米軍側も非常にその点では心配された、日本が要するに核に対するアレルギーといいますかそういうところに対する過剰な反対、反応といいますか抵抗を懸念しておりましたけれども、こころよくメディアも受け入れてくれた訳であります。私たちはわずか5日間の旅で向こうには3日間いましたけれども精一杯いろんな方々と話してきました。向こうの方は何一つ隠すようなことはありません。ただ核その場所には行きませんでしたけれども、経済界あるいは行政の方々あるいは軍の方々もこころよく私たちにいろんな質問に対してよく答えてくれました。

さきほどの方が1999年にステニスが大事故を起こして大問題ということになったとの発言がありましたが、そのことについて新聞記者の人が質問したら、そしたらコロナド市長が「え、そんなことあったの。」といったら市のシティ・マネージャーが「ありました。」答えておりました。その時は3点ありまして、ひとつはそういうことでありましたけれども非常に浅い水路でそこに乗り上げただけで、そのなにか汚染漏れがあってなんかがあるということはありませんよ。と簡単に話してました。でメディアの方が色めきだしてあと2点はなんだって

いっておりましたけれど、すべてどんなささいなことでも、あちらはきちっと報告を受けているということを私たちは確認できた訳です。

まず、もしこれを受け入れるようなことがあったら防災協定をきっちり結ぶことだと思えます。これはサンディエゴもこれは結んでいますから、防災協定は核だけではなく地震でも火災でもすべてのことについて一緒になって横須賀がやるこれは是非結んでいただきたい。その防災協定に基づく防災協議会これは毎月やっているのですね、これを毎月きちんとやって、何回かに1回は市長さんも基地の司令官も出るようにしてそれが行われておりますので、それと同等もしくはそれより高い安全性を維持するための会議がもたれれば安全性はより確保されるのではと思っております。

いままで戦後 62 年間日本が安全でありました、国民の生命も守られてきました。それは日米安保条約があったからであります。より日本を取り巻く近隣の危険というのは高まっております。そういう中で私たち横須賀市民のエゴだけではなしに国と国が決めたことはいずれは守っていかなくてはならない。そしてその中では大きく私たちが危険でない方法で是非これを受け入れる姿勢を持たざるを得ないのではないのかと思っております。

市長さんもいまきつと通常艦がのぞましいと思っておりますと、多分議会の方もそうでしょう。もしそれがなかったという場合も考えていかなければならないと思えます。ある方は通常艦は有りうると言っておられますけれど、この 12 隻の米軍の世界に展開されている航空母艦、そしてそれに乗っている艦載機すべての責任者であるゾートマン中將は1年しかもたないといっていますから、遠くにいて推測する方と日夜担当しているゾートマン中將どちらを信頼するか、これはすぐ結果が出てくることですから是非皆様にはご認識を賜りたいと思えます。

廣川部長

大変ありがとうございました。予定された時間もございましたのでこれで会議を終了させていただきます。それでは最後にもう一人ということで。

発言者 24 番

事故といいますがこのファクトシートを見てもリアクター・アクシデント、ダメージ・コントロールと両方アクシデント、ダメージ出てきます。だから故障と事故は違う、別々に考えていただきたい。高速道路で車エンジンが止まってしまった。これは事故ではありません、故障なのです。故障と事故を全部ダメージというか、故障を事故といったらたくさんありあますから、これを分けて考えてダメージはこれだよアクシデントはこれだけだったよと分けて説明して

いただければ安全性をさらに評価できるのかなと思います。

廣川部長

ありがとうございます。すみません最後に。

発言者 25 番

あの、こちら方のいわゆる地元住民を後ろに持つてゐる人たちは、やむを得ないけれども合意するしかないだろうというご意見とうけたまわりました。私は少しお門違いかもしれませんが、けれども原子力の話ではなくて、ゴミの話をしていただきたい。平成6年から地元で県の産業廃棄物最終処分場建設の話が舞い込みました。全く反対でございます。当然でございます。みんなが嫌うゴミがわが町に入って来る訳ですから、かといって諸般の事情から考えると作られてしまうな、それに気がついたのがその話を受けた平成6年に県から発表がありまして、そのころにはこれはもう出来てしまうのだと覚悟しました。あとは住民の人たちにご理解をいただくということですが、どんなに説明をしようとも不安は取り除けないわけです。

当時ダイオキシンの話が日本国中駆けめぐっておりました。それからテレビ、新聞では不法投棄のゴチャゴチャきたならしい産業廃棄物の廃棄現場を映す訳です。そんなものが来られては困る。何回か県から来て住民説明会をし、何度やったのでしょうか、われわれも他県の処分場それから中間処理施設を見て回り、自分では大丈夫だな、だけど不安は残っているわけです。ついこの4月準備が出来上がりまして、いよいよこの6月から搬入という作業が始まる訳です。

それから十年間、武山の懐のところを埋め立てていくわけですが、恐らくこれから十年間は不安を抱えながらなおかつ、それから先の保障は十年でその安全は得られるということではない、その先もその不安は続く訳です。だけど県に県との交渉の中で私は絶対という言葉は使わないよ、だけどできる限り今の技術で、できる限りの安全はその中に入れて欲しい。それでないと合意は出来ないよ、というようなことで住民の皆さんと何度も何度も話し合いを持ちました。でもいくら話し合っても自分の中にすら不安は残る訳です。この間の竣工式に申しあげましたのは、いよいよこれから私たちの不安は始まるのです。ひとつ十分な管理と安全を私達にくださいなというお願いをしたわけですが、全くことの重さ軽さ大きさ大小違うかもしれませんが、けれどもある意味では根っこのところでは全く同じ問題ではないのかなと、いわゆるわれわれの生命に対する安全に対しては全く同じではないかそんなふうな気がしてマイクを拝借したわけです。いくら説明してもいくら数字をあげてデータをあげて納得しても不安は市民の間にはずーと残っていくのだと思います。かといってそれを取り除けというのは出来るわざではありません。刊行物いくら出したって、いくら集めてそれか

ら集まってくれといったら私は賛成ではなくて最終的には合意しかないだろう。われわれの気持ちのうでで合意していくしかないのだろう。人に集まってくれといったら反対の人しか集まりません。どうでもいいという人、止むを得ないだろう人はまず集まってきません。その中で意見の開陳をすると袋叩きにあう訳です。二度も三度も袋叩きにあいました。でも最終的には住民のアンケート調査の中である条件をつけてやむを得ず合意しましょうというのが60何パーセントいただきまして、ほかにもやむなしというような意見がございまして80パーセント近い合意の数字を得たものですから県との協定に調印したものでございます。

全く同じ問題を市長さんが抱えられて、うちの方は十何年かかりました。その上で出来た産業廃棄物最終処分場でございます。おそらくそんな悠長な問題ではないだろう、近々結論をださなければならぬ問題だろう、やはり諸般の事情を考えますと受け入れざるを得ないのではないか。賛成、容認はできないけれども合意は私はしていかななくてはならないだろうと思います。それには安全の確保というのが第一であり、お帰りになった方がおっしゃたようにできる限りの条件を付けて補償とはいいません、見返りとはいいません、やはりそれだけの他府県と違う負担を我々はしょっていくわけですから、横須賀市のためになんとかということの中でおそらくわが会の人たちはおわかりいただけるのではないかと、そんなふうに思っております。時間外で申し訳ございませんでした。

廣川部長

どうもありがとうございました。まだご発言あろうかと思いますが時間もだいぶ経過いたしました、さらにご意見のございます方々につきましては、後ほど意見書をご提出していただければと思います。企画調整部基地対策課あてに手紙、ファックス等で頂戴いただければと思います。最後に蒲谷市長からご挨拶申し上げます。

蒲谷市長

特に挨拶ということはございません。ほんとに多くの方々から貴重なご意見を賜りました。色々なお立場それぞれでございます。それぞれのことを私は重く受け止めて、まずは皆様方に感謝をしてそしてこれから誤りなきように対応してまいりたいとこのように思います。本日は皆さん本当にありがとうございました。

廣川部長

それではこれもちまして空母キティ・ホーク後継艦問題についてご意見を聞く会を終了させていただきます。ありがとうございました。